

## 平成29年度学校教育診断アンケート 結果考察

柏原市立堅下北中学校  
校長 太田 貴之

先日保護者の皆様方にご回答いただきました「学校教育診断アンケート」の集計ができましたのでお知らせいたします。本年度は、316家庭の内、267家庭から回答をいただきました。回収率は、84.5%となっています。

設問の文言を少し見直していますが、昨年度に比べて、多くの項目で肯定的な回答が増えています。具体的には、21項目中16項目で上昇しました。また7割以上で肯定的評価をしていただいている設問が、11項目になりました。しかし、「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている。」という項目では、生徒のポイントは6割近くあるものの保護者では5割に届いていないことや、「人権学習や福祉ボランティア活動など豊かな心を育てる教育が実践されている。」という項目では、肯定的評価が下がり、否定的評価が上がったことが課題であります。また今年度新たに設けた「学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる。」という項目においては、4割近い保護者が満足できていないという現状がありました。

### 【授業について】

授業において、今まで6～7人で行っていた生活班を中心としたグループワークを、ペアワークや3～4人での学習班を取り入れるように変わってきています。そのことが、主体的、対話的で、深い学びにつながっています。また授業力向上のために教員間の授業見学や研究授業、研修にも意識的に取り組みました。中でも先進的な取り組みを行っている福井県や京都府で教員が研修してきたことは、本校の授業でも実践されています。すぐに成果に現れるとは限りませんが、いずれ子どもたちの学力向上に結びつくと考えています。

### 【生徒指導について】

今年度は、「あいさつ」に重点的に取り組み、一定の成果が見えてきましたが、生徒の言葉づかいや携帯電話の使用方法など中学生としての規範意識に課題もみられます。指導にあたっては、保護者と連携をとりながら、時には毅然と指導させていただくこともありますが、子どもたちの将来を考え、全体としてのルールを徹底しながら、一人ひとりに対して寄り添う指導

ができるように心がけています。また、さまざまな課題に対して事後的になるのではなく、例えば生徒会を中心に実施した「あいさつ運動」や「チャイム着席運動」等のキャンペーン活動の取り組みは一定の成果をえることができています。これからも教育の基本である「よりよい社会人の育成」をめざして、信頼関係を築いていけるように子どもたちとかがかわっていきたいと考えています。

### 【学習環境について】

施設・設備の面では、老朽化が進み子どもたちに迷惑をかける部分も生じていることも事実です。今年度は、下足室の改修や花壇、植木の剪定、エアコンの設置等できることに取り組んできましたが、まだまだ十分とはいえない状況です。柏原市教育委員会と連携しながら、「古くても愛着のわくきれいな校舎」となるよう、子どもたちとともに取り組んでいきたいと考えています。

今年度も多数のご回答ありがとうございました。これまでの取り組みを通して、まだまだ不十分なところもありますが、少しずつですが改善されつつある部分もあります。それらを整理・検証しながら、みなさま方の思いに応えることができるように、教職員全体で議論を重ね、方針を打ち出し、学校改善に取り組み、生徒・保護者・地域から「信頼される学校づくり」をよりいっそう推進してまいりたいと考えています。これからも保護者のみなさま方のご協力とともに、本校の子どもたちが生き生きと3年間を過ごし、卒業後の未来へと歩みだせるよう、よりいっそう努力してまいりたいと考えています。

今後ともご意見をいただきますよう、ご協力の程よろしく願いいたします。

生徒及び教職員の回答を含む結果考察につきましては、学校のホームページにおいても公開しています。